

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502389		
法人名	有限会社 敬友		
事業所名	グループホームいずみの里		
所在地	札幌市白石区北郷2条11丁目4番32号		
自己評価作成日	令和5年4月7日	評価結果市町村受理日	令和5年5月18日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0170502389-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和5年4月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「敬うところ 尊厳ある暮らし」の理念を念頭に入れ、ご入居者の皆様が毎日ゆったりと過ごして頂けるよう関り笑いのある暮らしを展開しています。毎月のイベントの他、歌・体操・パズル・貼り絵など様々なアクティビティも毎日行い活気にあふれています。コロナ禍で難しい場面でも今まで行ってきたことをできるだけ行えるよう花見・散歩・戸外での食事等出来る範囲で再現しています。ご家族の面会も感染対策を徹底しながら、今まで大切にしてきた関係継続の支援を行っております。また、近隣に系列グループホームも運営しており職員の人事交流でお互いの協力体制を構築したり、交流研修も実施しケアの質の向上にも努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

バス通りに近い住宅地にある2ユニットの事業所で今年で開設21年目を迎え、周辺には商店街や小学校があり至便な生活環境にある。法人役員が地域商店街、区商連の役員を務めていることもあり地域との結びつきが良好で、現在は未だ自粛であるが様々な相互交流や行事的な外出はもとより、食材の調達も地元店へ利用者と共に一緒に出向き買い物するなど当たり前の暮らしを支えている。感染症流行により実現が難しい利用者の希望に対し、職員は知恵とアイデアを出し合い内部でそれらに近づける楽しみ事を豊富に提供し、利用者に喜んでもらえるようにしている。昨年度は、入浴剤入りの足湯でほっこりした後に事前に希望を募っていた出前ラーメンを食し、温泉外出の気分を味わえるようにしたり、いちご畑の再現でいちご狩りの雰囲気を感じてもらうなどした。利用者に人気のごぼう先生の体操を日々継続して支援し身体機能の低下に努めたり、個別ではアクリルスポンジを編んだり、パズルや好きな歌コン番組を録画して好きな時に鑑賞できる環境や好みの釣りの雑誌を読むようにするなど、さりげなくアプローチも行いつつ1人ひとりの興味関心事が日常の中で行えるようにしている。食事支援や身だしなみ、おしゃれの支援にも力を入れている。家族の願いや心情に心を馳せ、また、利用者支援で戸惑う時は必ず理念に立ち返りカンファレンスする姿勢を堅持している。尊厳ある暮らしの保証に向け、日々尽力している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1Fこもれび)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「敬うこころ 尊厳ある暮らし」ホーム内の目が触れる場所に掲示、職員の基本姿勢としてケアが出来るよう努めている。	「敬うこころ、尊厳のある暮らし」の理念と共に当理念を具体化した5項目の理念を掲げ、事業所内要所へ掲示している。ユニット会議のミニ研修時に、理念に立ち返り支援を検討する機会があるなど意識づけがなされている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在はコロナ禍で実施できていないが以前は町内会行事に参加していた。終息後の交流につながるよう町内関係者のかたにはホームの状況を本部から伝えている。	町内会リサイクル活動の協力や地元の小学校入学式等の案内状が届いたり、法人役員が地域商店街、区商連の役員を務めている事から地域の方との結びつきが保たれている。社会情勢を鑑みつつ、相互交流の再開に取り組む予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内の催しに参加することで入居者の関りを見て頂いていたが、現在は相談などを電話で対応し認知症への理解に繋げている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在は書面会議として報告を行っている。	書面開催で運営している。入居状況、介護度、行事の様子、感染症等について記し、家族を含む構成員へ送付し報告している。	事故やヒヤリハット、職員の異動等を充足し構成員がよりモニターしやすい報告内容の検討や意見等を得る仕組みの構築に期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入退居や事故等の報告を行ったり、感染予防の助言や指示を頂いている。不明なことは積極的に電話連絡にてやり取りを行い協力関係を保てるよう努めている。	市の担当部署とは、法人本部と管理者が協同し介護保険制度に係る書類の提出を行ったり、案件により、管理者が直接担当者に電話で意見を仰ぐなどして適正な運営の維持に向けている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月毎に身体拘束適正委員会を開催し問題点を議論したり確認を行い、職員に周知し内部研修も開催している。不適切なケアに結びつかない生活の実施を目指している。	身体拘束に関する指針を定め、身体拘束適正化委員会で課題の検証や職員個々に不適切ケアチェックを実施している。昨年のこれらに係る研修は、「スピーチロックとは」「事例を読み込み考えを書く」の学びを行った。防犯上の理由により夜間帯は玄関を施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年数回、虐待防止の研修を行い全員が参加し学ぶ機会をもうけスキルアップを図っている。		

グループホームいずみの里

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1Fこもれび)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現状、利用されているケースがないため必要性や意識が薄れている。勉強の機会を持ち備える必要性を感じている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に十分な時間をかけ説明を行っている。疑問点や希望を伺いながら心配事や不安を解消し安心して利用して頂けるよう説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の意向を伺いながら体調や生活の様子等をご本人を中心とした話し合いを電話や来訪時に行っている。	利用者、家族から意見や思いを伝えてもらえるように信頼関係を築き支援等に反映している。利用者の温泉に行きたいとの実現が難しい要望には、事業所内で雰囲気味わってもらった。歩行などのADL維持に向けた家族からの要望に対しては、介護計画に反映させ支援を行っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や個人面談で意見を表せる場を設けている。また本部にも職員が自由に出入りできる環境にもなっているため、いつでも話ができるようになっている。	代表者は現場の意見を受け、調理職員を月に数日配置し職員の労働環境の改善を行った。外出支援が難しい中、職員は発想豊かに内部での再現レク活動に積極的に取り組んだ。管理者は職員の働き方や意向等を聞き話し合いながら調整している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善交付金の活用や資格取得者には手当などでモチベーションを図り知識や技術、経験に磨きをかけ働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりに合った研修の参加を促しスキルアップできる対応をしている。ユニット会議の後、内部研修を行ったり日頃のケアの振り返りも行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入し連絡会で情報交換を行っている。現在は電話やFAXで対応している。		

グループホームいずみの里

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1Fこもれび)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談時に本人面談を行い不安や困りごと・望まれる暮らしを伺い安心できるよう今までのご苦労を労い協働でご本人の暮らしを支えていけるよう信頼関係に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込みの段階でセンター方式のアセスメントの記入を依頼しながら出来るだけ多く要望を聞きアセスメントを行っている。また話しやすい雰囲気作りにも努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時の情報を全職員が確認し必要な支援を認識している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の負担にならないような言葉かけで職員と一緒に状況を見極めながら家事のお手伝いをお願いするなど関係作りに取り組んでいる。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者が出来ること、好きなこと等をお伝えし共に暮らしを支えるよう話し合っている。ご本人とご家族のつながりを大切にしながらハガキのやり取りや面会時のセッティング等、家族と本人のつながりを大切にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、友人、知人との電話でのやり取りのセッティングや面会の支援に努めている。	調査時点での面会は予約や時間、場所などの制限があるが、家族以外に知人、友人と実際に会えるようこれまでの関係継続が途切れないようにしている。電話の取り次ぎや手紙のやり取りでは代読や本人からのメッセージを代筆し対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	おやつ時、アクティビティや団らん時に職員も加わり楽しい時間を過ごしている。また食席や過ごされる場所に配慮し環境を整えている。		

グループホームいずみの里

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1Fこもれび)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームの利用が終了してもその後の状況や近況を伺う機会があったり、不要な車イス等の譲渡の声掛けを頂いたり断ち切らない関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話の中で希望や意向を伺い、関りの中で表情や仕草からも把握している。会議や申し送りや情報を共有している。	利用開始時に家族にセンター方式のアセスメントへの協力を得て事前情報を得ている。日々の生活の中で本人の願いや意向について直接聞き取ったり、様子から推し量るなどして把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を利用し把握に努めている。本人・家族・関係機関からも情報提供頂き活用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	情報の共有や一日の暮らしから状態の変化まで観察し把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なカンファレンスにおいて意見交換しご本人ご家族の意向を取り入れている。	利用者がより良く暮らすための課題やケアのあり方についてカンファレンスし、何のために何をどのように行うか、根拠を明確にした中で、本人や家族の意向や必要な支援を盛り込んだ介護計画を策定している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の関りでの気づきや様子を記録し問題点を共有しながら実践につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・ご家族の状況に合わせて通院の付き添いや衣類等の補充や購入の支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在は地域交流はできていないが、小さな話題でもお伝えし地域資源に触れる機会にしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回の訪問診療を行っている。本人・家族の希望も伝えながら関係性を築いている。また薬剤師の薬管理や指導・助言も受けながら連携している。	全員が協力医療機関(内科)の定期訪問診療を受けている。歯科は必要時に往診が得られる態勢である。看護師と職員との情報交換により、眼科受診の必要性を発見し適切な医療を受けている事例がある。	

グループホームいずみの里

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1Fこもれび)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師が週1回訪問看護で一人一人の全身確認の変化をみて記録している。健康管理で相談や助言を受け連携している。急な体調不良時も電話で指示受ける等、訪問看護日以外も適宜、対応し体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	早期退院が出来るよう基本情報、介護添書の提供を行い、日頃から医療関係者と情報交換を行うと共に関係作りに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居相談時にホームでの対応範囲を説明し契約時には確認書を取り交わし同意を得ている。	利用契約時に「重度化対応・終末期ケア対応・看取り指針」「終末期及び緊急時に関する意思確認書」を説明し同意を得ている。医師の判断等に基づき関係者間で話し合い今後の方針を定め、療養型病床移行では今後の療養生活の話し合いに同行するなどしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを使用し事故発生時に備えている。看護師への連絡体制も整えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナ禍前は消防署員立ち合いのもと夜間想定避難訓練を実施していた。現在は、防災管理会社の協力のもと避難・消火訓練を実施している(令和5年4月4日終了)	左記自己評価以外に令和4年10月、日中想定火災避難訓練を実施した。避難訓練時は法人本部の協力が得られており、災害備蓄品は本部で備蓄している。自然災害発生時における業務継続計画は本部で策定中である。	階段使用時における避難誘導について職員間で再検討し臨場時に備える考えを示しているので実現に期待すると共に、想定される自然災害は何かあるか、発生時の課題抽出やこれらの図上訓練に期待したい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の呼称については入居時、家族・本人に希望を伺っている。申し送りを行う際は、イニシャルを使用したり別室で行うようプライバシーに配慮している。	職員は「認知症ケアから考える高齢者虐待防止の視点」のオンデマンド研修に参加し利用者尊重の姿勢を学んでいる。支援に戸惑った際は「敬うこころ、尊厳のある暮らし」の理念に立ち返り接遇に気をつけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりに合わせて質問の仕方を変える等、選択しやすいよう工夫し自己決定できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のペースに合わせて過ごせるよう強引な誘導は行わず、出来る限り希望に沿いながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な訪問美容サービスを利用しカットやヘアカラー等、希望に沿い対応している。一人ひとりの好みも把握し更衣やお化粧のお手伝いも行っている。		

グループホームいずみの里

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1Fこもれび)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に応じて献立を工夫し職員や調理員が調理している。出来る範囲で芋の皮むきや盛り付けなど入居者と職員が一緒に行うこともある。食器洗い・食器拭きは毎日行っている。会話の中で食べたいものを探ったり出来るだけ希望に沿うようにしている。	職員が栄養バランスや時々利用者の好みを考慮し献立している。サンドイッチは種類豊富にパーティー形式にしたり、和洋折衷食べ放題バイキング、敬老会の寿司や誕生日は人気の赤飯で祝っている。回転寿司のテイクアウトやラーメンの出前、おやつバイキングなど多彩な食を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量は記録に残し職員間で共有している。嚥下状態に合わせた食事形態の提供や食器やスプーンの選定なども個々に合わせて対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、食後の口腔ケアを実施し必要に応じて歯科医の指導・治療を受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し自立に向けた声掛けや誘導を行っている。状態に合わせた下着や衛生用品の検討をしながらトイレでの排泄に向けた支援を行っている。誘導の際の声掛けにも自尊心を傷つけないよう十分配慮している。	尿意便意を失念している利用者へは排泄表を見て適宜誘導している。重度化でベッド上での交換の利用者もいるが、厚手の尿漏れ防止パンツや夜間のみパッド使用とするなど、衛生用品類の使用を最低限にした支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、牛乳やヨーグルトを提供し繊維質の多い食材を取り入れたり水分の促しで便秘予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2~3回入浴できるよう声掛けをしている。拒否がある場合は言葉かけを工夫したり時間を配慮したり対応している。ゆったり湯につかれるよう入浴剤の種類を変えたり楽しんで入れるよう努めている。	職員は「ニューヨークに行きましょう」「美人の湯ですよ」の声かけや楽しい雰囲気配慮し入浴中は笑い声が聞こえている。浴後に「ニューヨークに行って来た」と他者に話す利用者もいる。入浴が好きな利用者では長湯に気をつけ湯当たりに留意している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に活動を促し就寝時安心して眠れるように支援している。個々の体調に合わせて日中も休憩時間を設けるなど工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	訪問薬剤管理で薬剤師と連携し保管管理を行っている。個々の服用内容を把握し服薬時マニュアルに沿って事故が無いように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合わせた家事や趣味活動に参加しホームの生活が充実したものになるよう支援している。		

グループホームいずみの里

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1Fこもれび)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	玄関前のガーデニング作業や草花の観賞で季節を感じたりしている。選挙の投票や遠方の受診、法事などご家族の協力のもと感染対策を行いながら出かけられるよう支援している。	調査時点ではあるが、気兼ねなく散歩に出かける事は自粛している。物干し場に出たり、昨年は畑でアスパラの収穫や花畑の水やりで外気に触れている。桜や紅葉などの季節を感じるドライブや家族と一緒に選挙に出かけたり、家族の行事に出席している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	安全面を配慮し金銭管理は家族・ホームで行っている。少額を持参することで安心される方は所持することが可能になっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話の所持は可能になっている。ホームの電話も使用可能になっており通話できるようにしている。またハガキや年賀状を出す支援も行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた飾りつけや行事の写真を貼りだすことによって話題作りにも活用している。トイレの場所もわかりやすく混乱しないよう表示している。音や光の刺激にも配慮し、心地よい音楽や懐メロ、ご飯の炊ける匂いや野菜を刻む音など家庭的な雰囲気で落ち着けるようにしている。	玄関には時節のちぎり絵が飾られている。共用空間には花などの飾り付けがあり温かい雰囲気がある。トイレ表示はカラフルにし分かりやすくしている。声のトーンなど職員自身の発する音に気をつけ、また、夜間に向け徐々にダウンライトし落ち着ける環境に配慮している。共用スペースに床暖とエアコンを設備し過ごしやすい環境を整えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりの自席で落ち着ける場所を工夫しゆっくり過ごせるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や写真、仏壇、人形等を本人と相談し安全を考慮しつつ設置し、安心して暮らせるよう工夫している。	照明、カーテン、暖房器具の備え付けがあり、リロケーションダメージを少しでも防止できるよう馴染みの家具や調度品、お気に入りの飾り物やアルバムの持ち込みを依頼しセッティングしている。本人の状態像に応じ設えを変更するなどして安心できる環境を設えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口には表札をかけたたり、トイレがわかるよう表示したり工夫している。障害物を置かなよう注意し、混乱や事故防止に配慮した環境整備で生活している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502389		
法人名	有限会社 敬友		
事業所名	グループホームいずみの里		
所在地	札幌市白石区北郷2条11丁目4番32号		
自己評価作成日	令和5年4月7日	評価結果市町村受理日	令和5年5月18日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigvovsoCd=0170502389-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和5年4月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「敬うところ 尊厳ある暮らし」の理念を念頭に入れ、ご入居者の皆様が毎日ゆったりと過ごして頂けるよう関り笑いのある暮らしを展開しています。毎月のイベントの他、歌・体操・パズル・貼り絵など様々なアクティビティも毎日行い活気にあふれています。コロナ禍で難しい場面でも今まで行ってきたことをできるだけ行えるよう花見・散歩・戸外での食事等出来る範囲で再現しています。ご家族の面会も感染対策を徹底しながら、今まで大切にしてきた関係継続の支援を行っております。また、近隣に系列グループホームも運営しており職員の人事交流でお互いの協力体制を構築したり、交流研修も実施しケアの質の向上にも努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2Fそよかぜ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念に基づいて利用者に関わりユニット居間に掲示し実践に繋げている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で出来ていなかったがホーム周辺を散歩し庭の花壇を見学し近隣の方とお話し交流を図っていた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談等あった場合、電話で対応したり活動の様子を地域の方に職員から伝えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の活動報告の議題にのせ話し合いを行っていたが現在は書面会議として報告を行っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入退居、事故等の報告を行い不明な点は助言・指示を頂きながら関係性を築くよう取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に1回身体拘束適正委員会を行い問題点を議論したり確認を行い職員に周知し研修も開催し不適切なケアに結びつかない生活の実践をめざしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年数回、虐待防止の研修を行いユニット会議や申し送りの際にも話し合う機会を持ち意識付けを行っている。		

グループホームいずみの里

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2Fそよかせ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現状、利用されているケースがないため必要性や意識が薄れている。勉強の機会を持ち備える必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に十分な時間をかけ説明を行っている。疑問点や希望を伺いながら心配事や不安を解消し安心していただけるよう説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の意向を伺いながら体調や生活の様子等、本人を中心とした話し合いを電話や来訪時に行っている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や個人面談で意見を表せる場を設けている。また本部にも職員が自由に出入りいつでも話ができる環境になっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善交付金の活用や資格取得には手当などでモチベーションを図り知識・技術・経験に磨きをかけ働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりに合った研修の参加を促しスキルアップできる対応をとっている。ユニット会議の後、内部研修を行ったり日頃のケアの振り返りも行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に参加し連絡会での情報交換を行っている。現在は電話・FAXでのやり取りで対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2Fそよかせ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談時に本人の望まれる暮らし、不安や困りごとなどの話をよく聞いて安心していただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み時に家族とセンター方式のアセスメントを行い要望や相談を伺っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時の情報を全職員が確認し必要な支援を認識している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人ができる負担にならないような家事活動を声掛けしながら一緒に色んな話をしながら関係性を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人ができること、好きなことを伝え楽しく過ごしてもらえよう話し合いながら、共に暮らしを支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、本人、知人との電話のやり取りのセッティングや面談の支援に努めている。家族から預かったアルバムを職員と一緒に見て大切にしてきた思い出などを話し支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事、おやつ時の食席や過ごされる場所に配慮し環境を整えている。またアクティビティや団らん時は職員も一緒に楽しい時間を過ごしてもらえよう努めている。		

グループホームいずみの里

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2Fそよかせ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームの利用が終了してもその後の状況や近況を伺う機会があったり、不用になった福祉用具等の譲渡の声掛けを頂いたり断ち切らない関係性を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話や関りの中で希望や意向を伺い表情や仕草からも把握している。会議や申し送りで情報を共有している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を利用し把握に努めている。関係機関からの情報も提供頂き活用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	情報の共有や1日の暮らしから状態の変化まで観察、残存能力や有する力を尊重し個々に合わせた関りに努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なカンファレンスにおいて意見交換し本人・家族の意向を取り入れている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の関りで気づきや様子を記録し問題点を共有しながら実践に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況に合わせて通院の付き添いや衣類の補充・購入の支援等、柔軟に行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在は地域交流はできていないが小さな話題でもお伝えし地域資源にふれる機会にしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回の訪問診療を行っている。家族の希望も伝えながら関係性を築いている。また薬剤師の薬管理や指導・助言も受けながら連携している。		

グループホームいずみの里

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2Fそよかせ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護にて一人ひとりの健康状態の変化を記録し助言を受け連携している。急な体調不良時も電話等で支持を仰ぐなど適宜対応できる体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	早期退院できるよう基本情報・介護添書の提供を行い日頃から医療関係者と情報交換を行うとともに関係づくりに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居相談時にホームでの対応範囲を説明し契約時に確認書を取り交わし同意を得ている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルを使用し事故発生時に備えている。看護師への連絡体制も整えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナ禍前は、消防署員立会いのもと夜間想定避難訓練を実施していた。現在は防災管理会社の協力のもと訓練を実施している。R5.4.4避難・消火訓練終了している。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の呼称について入居時に家族・本人に希望を伺っている。申し送りの際は、イニシャルを使用した別室で行ったりプライバシーに配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や想いをくみ取れるよう、日頃から関係作りを心掛けて自己決定できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務的にならないようその日の体調や気分に合わせて暮らしの支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問美容を利用している。季節やTPOに合わせて更衣や身だしなみのお手伝いを行っている。		

グループホームいずみの里

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2Fそよかせ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材があったら目で見て触って季節を感じ、下ごしらえなど出来ることを手伝って頂いている。家庭の雰囲気を楽しみながら食事ができる様支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量は記録に残し職員間で共有している。個々の接種機能により食事形態やスプーンの選定などを考え提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床後、毎食後に声かけし口腔ケアの介助を実施している。また訪問歯科医の指導・治療も受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し声掛けや誘導を行っている。排泄状況に合わせた衛生用品を使い分け失敗のないよう、自尊心に配慮し自立に向けた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳やヨーグルト、水分を多めにとり頂いたり午前・午後と運動も取り入れながら便秘改善に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調や希望に合わせて週2～3回入って頂けるよう支援している。楽しく入浴して頂けるよう、昔の話や好む話をしコミュニケーションを図りながらリラックスできるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活パターンや希望に合わせてソファや居室ベッドで休息して頂いている。夜間安眠につながるよう照明にも気を配り安眠につながるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	訪問薬剤管理で薬剤師と連携し保管管理を行っている。個々の服用内容を把握し服薬時マニュアルに沿って事故が無いよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりの個性・性格や趣味に合わせて楽しく過ごせるよう支援している。行事やアクティビティで気分転換を図っている。		

グループホームいずみの里

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2Fそよかせ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとのドライブを行い四季折々の風景を車窓からだが楽しんでいる。感染対策を行いながら水やりやガーデニング活動を行い外の空気を吸ったりしている。家族の協力のもと、遠方の受診や選挙に出かけたりしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	安全面に配慮し金銭管理は家族・ホームで行っている。少額を持つことで安心される方は所持することができるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話の所持は可能になっている。ホームの電話も使用可能で家族に連絡の上、取次ぎも行きやとりができるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間に季節を感じる装飾や行事の写真などを貼りコミュニケーションツールとしている。温度や照明にも配慮し心地よい音楽や調理の音など家庭的な落ち着いた空間となるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルの配置を工夫したり食席に記名し気の合う人と過ごせるよう工夫している。一人になれる居場所が確保できるようパーテーションを利用したり工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人・家族と相談しながら馴染みのある飾りもの・人形・仏壇などを設置し安心して過ごせるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日常生活動作を把握し手すりや家具の配置を工夫安全な移動動線の環境づくりに努めている。		

目標達成計画

事業所名 グループホームいずみの里

作成日：令和 5年 5月 16日

市町村受理日：令和 5年 5月 18日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	階段使用時における避難誘導について職員間で再検討し備える必要がある。また想定される自然災害は何かがあるか課題抽出や図上訓練の実現も必要である。	様々な自然災害を想定し危険な箇所について点検など課題抽出や図上訓練を行い災害時に備える。	階段使用時における避難誘導について、どのような方法があるか職員間で話し合いを行う機会を持つ。防災マップやハザードマップ等を利用し想定される災害についても話し合い、いろいろな状況の災害や急変時について図上訓練を行う。	6か月
2	4	運営推進会議における報告内容の検討や意見等を得る仕組みの構築が必要である。	家族を含む構成員がモニターしやすい報告内容や意見等を得やすい仕組みの構築を目指しサービス向上に活かしていく。	事故報告や職員の異動の内容を報告する等、報告内容についての再検討を法人本部と話し合い見直しを行う。	3か月
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。